

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間と人間の生活		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

生活における自分の考えや、生活に関わる人々との人間関係などあるが、身体と心及び生活をキーワードに人間生活を考える。

授業終了時の到達目標

人間の生活及び心身の両面に関わる事柄を理解する。

回	テーマ	内容
1	人間と人間生活。A 身体。	テキストP4 1 外面からみた身体。2 内面からみた身体。について。
2	人間と人間生活。A 身体。B 心。	テキストP5 3 個体差と正常・異常。4 身体に異常をもたらすもの。 B 心。1 脳と心。2 心の発達。 3 心の異常。4 心と身体のおぼつかなさ。について。
3	人間と人間生活。C 生活(暮らし)。	テキストP6 1 生活という言葉。2 生活を支える活動。について。
4	人間と人間生活。C 生活(暮らし)。	テキストP6・7 3 平安な生活を支えるもの。4 人間の叡知への期待。
5	科学的思考の基礎。A 科学的思考。	テキストP8 A 科学的思考。について。
6	科学的思考の基礎。B 科学における客観性。	テキストP8 B 科学における客観性。について。
7	科学的思考の基礎。C 仮説と実証。	テキストP9 C 仮説と実証。について。
8	科学的思考の基礎。D 再現性。	テキストP9・10 D 再現性。について。
9	科学的思考の基礎。E 母集団とサンプル(抽出標本)。	テキストP10 E 母集団とサンプル(抽出標本)。について。
10	科学的思考の基礎。F 内的妥当性と外的妥当性。	テキストP10 F 内的妥当性と外的妥当性。について。
11	科学的思考の基礎。G 普遍性。	テキストP10・11 G 普遍性。について。
12	科学的思考の基礎。H 科学とアート(science and art)。	テキストP11 H 科学とアート(science and art)。
13	復習-1	今までの内容の復習。
14	復習-2	今までの内容の復習。
15	定期試験	学力判定の定期試験。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
救急救命士標準テキスト改訂第10版	出席率 期末試験 授業態度	15.0% 70.0% 15.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生命倫理と医の倫理		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

生命倫理の4つの原則から救急活動に必要なインフォームドコンセント、リビングウィルについて理解する。

授業終了時の到達目標

医療従事者としての倫理、それに伴う患者様の尊厳を理解する。

回	テーマ	内容
1	生命倫理と医の倫理。A 生命倫理と医の倫理。	テキストP12・13 生命倫理と医の倫理。A 生命倫理と医の倫理。 1 生命倫理に関する原則。(その1)について。
2	生命倫理と医の倫理。A 生命倫理と医の倫理。	テキストP13 A 生命倫理と医の倫理。 1 生命倫理に関する原則。(その2)について。
3	生命倫理と医の倫理。A 生命倫理と医の倫理。	テキストP13 2 ヒポクラティスの誓い。3 ジュネーブ宣言。 4 ヘルシンキ宣言。5 リスボン宣言。について。
4	生命倫理と医の倫理。B 生命倫理の考え方と医療の実際。	テキストP14 B 生命倫理の考え方と医療の実際。について。
5	生命倫理と医の倫理。C 傷病者の権利を護る立場から。	テキストP14・15 C 傷病者の権利を護る立場から。 1 インフォームドコンセント。について。
6	生命倫理と医の倫理。C 傷病者の権利を護る立場から。	テキストP15 C 傷病者の権利を護る立場から。 2 QOL (quality of life)。について。
7	生命倫理と医の倫理。C 傷病者の権利を護る立場から。	テキストP15 C 傷病者の権利を護る立場から。 3 リビングウィル。について。
8	生命倫理と医の倫理。C 傷病者の権利を護る立場から。	テキストP15 C 傷病者の権利を護る立場から。 4 脳死と臓器移植。について。
9	生命倫理と医の倫理。D 救急救命士の職業倫理	テキストP15 D 救急救命士の職業倫理。について。
10	生命倫理と医の倫理。D 救急救命士の職業倫理	テキストP16 D 救急救命士の職業倫理。について。 1 日常業務における救急救命士の責務(その1)
11	生命倫理と医の倫理。D 救急救命士の職業倫理	テキストP16 D 救急救命士の職業倫理。について。 1 日常業務における救急救命士の責務(その2)
12	生命倫理と医の倫理。D 救急救命士の職業倫理	テキストP16・17 D 救急救命士の職業倫理。 2 救急救命士が個人として研鑽すべき責務。について。
13	生命倫理と医の倫理。	復習-1
14	生命倫理と医の倫理。	復習-2
15	生命倫理と医の倫理。	定期試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
救急救命士標準テキスト第10版	出席率 期末試験 授業態度	15.0% 70.0% 15.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療保険制度の仕組みと現状		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

健康に関する公衆衛生について、またそれに関わる行政の在り方について。

授業終了時の到達目標

公衆衛生について説明でき、健康に関する因子、保険指標に関する行政機関、国際保健について理解する。

回	テーマ	内容
1	保健医療制度の仕組みと現状。A 健康と公衆衛生。	テキストP20。1 健康とは(その1)
2	保健医療制度の仕組みと現状。A 健康と公衆衛生。	テキストP20。1 健康とは(その2)
3	保健医療制度の仕組みと現状。A 健康と公衆衛生。	テキストP21。2 公衆衛生とは。
4	保健医療制度の仕組みと現状。A 健康と公衆衛生。	テキストP21・23。3 公衆衛生に関係する行政組織。(その1)
5	保健医療制度の仕組みと現状。A 健康と公衆衛生。	テキストP21・23。3 公衆衛生に関係する行政組織。(その2)
6	保健医療制度の仕組みと現状。A 健康と公衆衛生。	テキストP23。4 国際保健。
7	保健医療制度の仕組みと現状。D さまざまな保健衛生	テキストP33。1 食品衛生(その1)。
8	保健医療制度の仕組みと現状。D さまざまな保健衛生	テキストP33・34。1 食品衛生(その2)。
9	保健医療制度の仕組みと現状。D さまざまな保健衛生	テキストP34。2 環境衛生(その1)
10	保健医療制度の仕組みと現状。D さまざまな保健衛生	テキストP34。2 環境衛生(その2)
11	保健医療制度の仕組みと現状。D さまざまな保健衛生	テキストP34・35。3 労働衛生(その1)
12	保健医療制度の仕組みと現状。D さまざまな保健衛生	テキストP35。3 労働衛生(その2)
13	保健医療制度の仕組みと現状。 A 健康と公衆衛生。D さまざまな保健衛生	復習-1 今までの復習。
14	保健医療制度の仕組みと現状。 A 健康と公衆衛生。D さまざまな保健衛生	復習-2 今までの復習。
15	期末試験	学力判定の定期試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
救命士標準テキスト改訂第10	出席率 期末試験 授業態度	15.0% 70.0% 15.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会保障と社会福祉		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師
授業の概要				
社会保障制度、医療保険制度、年金生度、児童福祉など、社会保障と社会福祉について。				
授業終了時の到達目標				
社会保障と理念にいて説明でき、柱となる4つの事項が理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	社会保障と社会福祉。A 社会保障とその仕組み。	テキストP40~42。1 社会保障とその理念。2 日本の社会保障制度。3 社会保障給付費。		
2	社会保障と社会福祉。B 社会保障。	テキストP42・43。1 社会保障とは。2 医療保険制度(その1)。		
3	社会保障と社会福祉。B 社会保障。	テキストP43・44。2 医療保険制度(その2)。		
4	社会保障と社会福祉。B 社会保障。	テキストP44。3 介護保険制度。(その1)		
5	社会保障と社会福祉。B 社会保障。	テキストP44・45。3 介護保険制度。(その2)		
6	社会保障と社会福祉。B 社会保障。	テキストP45・46。4 年金保険制度。		
7	社会保障と社会福祉。C 社会福祉と公的扶助。	テキストP46・47。1 社会福祉と公的扶助。2 児童福祉。(その1)		
8	社会保障と社会福祉。C 社会福祉と公的扶助。	テキストP47・48。2 児童福祉(その2)。		
9	社会保障と社会福祉。C 社会福祉と公的扶助。	テキストP48・49。3 障害者福祉。4 高齢者福祉。(その1)。		
10	社会保障と社会福祉。C 社会福祉と公的扶助。	テキストP49~51。4 高齢者福祉。(その2)		
11	社会保障と社会福祉。C 社会福祉と公的扶助。	テキストP51。5 公的扶助(国家扶助)その1。		
12	社会保障と社会福祉。C 社会福祉と公的扶助。	テキストP51・52。5 公的扶助(国家扶助)その2。		
13	社会保障と社会福祉。 A 社会保障とその仕組み。B 社会保障。C 社会福祉と公的扶助。	復習-1 A 社会保障とその仕組み。B 社会保障。C 社会福祉と公的扶助。上記について今までの復習。		
14	社会保障と社会福祉。 A 社会保障とその仕組み。B 社会保障。C 社会福祉と公的扶助。	復習-2 A 社会保障とその仕組み。B 社会保障。C 社会福祉と公的扶助。上記について今までの復習。		
15	定期試験。	学力判定の定期試験。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
救命士標準テキスト改訂第10		出席率 期末試験 授業態度	15.0% 70.0% 15.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人体の構造		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

医学の基本である人体の構造を理解する。

授業終了時の到達目標

人体の構造を理解することにより医学的根拠に結び付けられるよう解剖学の基礎を習得する。重要事項や解剖用語を説明し、模式図を板書し、写真や図・表などパワーポイントなどを使用し、理解へと務める。

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(授業の進め方)『人体を構成する要素』	
2	『人体の作りとその役割』	細胞・組織・臓器
3	『体液』	体液の組成・細胞外液・細胞内液
4	『体液』	電解質・酸塩基平衡・浸透圧・電解質と体液調整のメカニズム
5	『人体の位置・方向・運動に関する用語』	軸と面・帯・点と線・間接運動の方向
6	『体表からみた構造と名称』	体表の観察・頭部(顔部)の構造・頸部の構造
7	『体表からみた構造と名称』	胸部の構造・腹部の構造・会陰部の構造
8	『体表からみた構造と名称』	循環器・消化器の構造
9	『体表からみた構造と名称』	上肢の構造・下肢の構造
10	『体表から見える解剖学的指標』	骨学
11	『身体各部位の役割』	頭部(顔部)の役割・胸部の役割
12	『身体各部位の役割』	腹部の役割・四肢骨盤の役割
13	『体腔内臓器の体表からの位置関係』	頭蓋腔
14	『体腔内臓器の体表からの位置関係』	胸腔・腹腔
15	定期試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 「からだが見える 人体の構造と機能」 ※メディックメディア その他必要に応じ資料を配付する。	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人体の機能		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

人体の構造を基に細胞や各臓器がどのように働き、どのように機能するかを基礎から学び、医学的に理解することにより疾患に結びつけられるように解剖学における機能の基礎を習得する。

授業終了時の到達目標

重要事項や解剖用語を説明し、模式図を板書し、写真や図・表などパワーポイントなどを使用し、理解へと務める。

回	テーマ	内容
1	『ガイダンス』講義の進め方等『神経系』	神経系の構成と役割
2	『神経系』	中枢神経系・末梢神経系
3	『神経系』	伝導路・自律神経系
4	『神経系』	脳循環・意識・反射
5	『感覚系』	感覚系の構成と役割・視覚・平衡感覚・聴覚器
6	『感覚系』	臭覚器・味覚器・皮膚感覚器
7	『呼吸系』	呼吸系の構成と役割
8	『呼吸系』	呼吸・気道
9	『呼吸系』	胸郭・肺・肺でのガス交換
10	『呼吸系』	体内での酸素の動き・呼吸の調節
11	『循環系』	循環系の構成と役割
12	『循環系』	心臓
13	『循環系』	脈管
14	『循環系』	循環の制御
15	定期試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 「からだが見える 人体の構造と機能」 ※メディックメディア その他必要に応じ資料を配付する。	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
疾病の科学		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

救急医療のなかで、生命の誕生から死までの生い立ちや体内の科学を学び、生きるために必要なエネルギーや細胞の働き、変異や腫瘍、死体現象といった生体科学を学ぶ。

授業終了時の到達目標

解剖学を通じて、疾患の成り立ちから死までの生体に関わる変化を学ばせ、救急医療や社会的に必要な疾患の基礎を習得させる。

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(講義の進め方等)『炎症と感染』	炎症
2	『炎症と感染』	感染症
3	『循環障害』	虚血・うっ血・出血
4	『循環障害』	血栓と塞栓・梗塞・浮腫
5	『代謝障害』	糖質の代謝異常・脂質の代謝異常・蛋白質の代謝異常・内分泌異常
6	『代謝障害』	ビタミンの代謝異常・体液と電解質異常・酸塩基平衡異常
7	『退行性病変と進行性病変』	退行性病変
8	『退行性病変と進行性病変』	進行性病変
9	『腫瘍』	良性腫瘍・悪性腫瘍
10	『先天異常』	内因性先天異常
11	『先天異常』	外因性先天異常
12	『損傷』	損傷・創傷治癒
13	『死』	死の概念・死体現象
14	『死』	死にかかわる手続きと検査・死体の尊厳
15	『定期試験』	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※ヘルス出版 その他必要に応じ資料を配付	期末試験 授業態度 出席率	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生概論		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

救急救命士(医療人)として時代の流れとともに変化してきた疾病構造や、その要因のひとつである環境について理解する。

授業終了時の到達目標

子どもから高齢者までの健康問題、社会保障や社会福祉についての公衆衛生学を習得する。併せて、健康の定義、医療費や社会保障の内容、医療関連法規について医学の基本である「公衆衛生学」を基礎から学び医療人としての動態を習得させる。

回	テーマ	内容
1	『ガイドンス』講義の進め方・『保健医療制度の仕組みと現状』	公衆衛生の仕組み
2	『保健医療制度の仕組みと現状』	医療を取り巻く環境
3	『保健医療制度の仕組みと現状』	疾病構造の変化
4	『保健医療制度の仕組みと現状』	医療供給体制
5	『保健医療制度の仕組みと現状』	在宅医療と地域包括ケア
6	『保健医療制度の仕組みと現状』	環境保健・労働衛生を支える仕組み
7	『保健医療制度の仕組みと現状』	学校保健を支える仕組み
8	『社会保障と社会福祉』	社会保障
9	『社会保障と社会福祉を支える仕組み』	社会福祉の仕組み
10	『社会保障と社会福祉』	介護保険制度・年金保険制度
11	『社会保障と社会福祉』	生活保護・児童福祉
12	『社会保障と社会福祉』	高齢者福祉
13	『社会保障と社会福祉』	母子寡婦福祉
14	『社会保障と社会福祉』	障害者福祉
15	定期試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※ヘルス出版 ・必要に応じ資料配布	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急医学総論		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

講義はテキストに沿って進め、救急医療の背景や歴史を学ぶことで医療を理解し、救急医療の成り立ちを把握する。また、テーマ研究や発表、プレゼンテーションなどを取り入れることにより、自身の資格に対する関係法規や役割、責任について考えさせ学ぶ。

授業終了時の到達目標

救急救命士の業務と使命を十分理解し、救急救命士になるために学ばなければならない救急医学の概要を修得する。救急医療発展の歴史と救急救命士誕生の背景、救急救命士の業務と責任、病院前救護(フレホスヒ?タルケア)におけるメディカルコントロール体制の重要性、救急救命士に求められる倫理などについて学習する。

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・『生命倫理と医の倫理』	
2	『救急療体制』	救急医療体制及び救急医療機関が説明できる
3	『救急療体制』	メディカルコントロールについて説明できる
4	『災害医療体制』	災害の定義および自然災害、人的災害、特殊災害について説明できる
5	『災害医療体制』	災害時のゾーニングについて説明できる
6	『災害医療体制』	トリアージについて説明できる
7	『消防機関における救急活動の流れ』	課t道の流れおよび状況評価、初期評価が説明できる
8	『救急活動時のコミュニケーション』	言語、非言語コミュニケーションおよび小児、高齢者へのコミュニケーションについて説明できる
9	『救急救命士に関する法令』	消防法、救急救命士法について説明できる
10	『救急救命士の養成と生涯教育』	救急救命士の自己研鑽、病院実習について説明できる
11	『安全管理と事故対応』	リスクマネジメント、インシデント、アクシデントについて説明できる
12	『感染対策』	標準予防策、感染防止用個人防護具について説明できる
13	『感染対策』	手指消毒および感染症について説明できる
14	『ストレスに対するマネジメント』	PTSDおよびでフュージング、デビリーフィングについて説明できる
15	定期試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料配布	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急処置各論 I		救急救命学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

テキストに沿って授業を行い、救急資機材、観察用資機材を使用し互いにし各種処置及び観察を実施することで基本知識及び手技を習熟させる。

授業終了時の到達目標

救急現場で救急隊員、救急救命士が行う傷病者の観察方法について理解する。また、観察内容を通じて基本的な病態を理解することで、観察の必要性や鑑別能力を高める。

回	テーマ	内容
1	『観察総論』	観察の目的と意義・バイタルサイン・観察の方法
2	『観察総論』	観察の目的と意義・バイタルサイン・観察の方法
3	『全身状態の観察』	外見の観察、気道に関する観察
4	『全身状態の観察』	呼吸に関する観察、循環に関する観察
5	『全身状態の観察』	意識状態に関する観察
6	『局所の観察』	観察結果の表現、皮膚
7	『局所の観察』	頭部・顔面・頸部に関する観察
8	『局所の観察』	胸部・背部・腹部に関する観察
9	『局所の観察』	四肢・その他の部位に関する観察
10	『神経所見の観察』	運動機能・感覚に関する観察
11	『神経所見の観察』	髄膜刺激症候・失語症と構音障害に関する観察
12	『神経所見の観察』	脳卒中スケール・神経学的異常に関する観察
13	『緊急度・重症度判断』	緊急度と重症度
14	『緊急度・重症度判断』	判断の基準
15	定期試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料配布	期末試験 授業態度 出席率	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急救命実習 I		救急救命学科/1年	2024/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	90回	6単位(270時間)	必須	講師
授業の概要				
<p>救急救命士として必要な基礎知識、スキルを習得させ、団体行動の基本である規律や報告等の基本動作を身につけさせる。また、事故を防止し、災害時などにお互い助け合えるようなチームワークの精神を育てるとともに、医療人である自覚を認識させる成人、小児の心肺蘇生法を基本とする「一次救命処置」を中心に止血や異物除去、三角巾や包帯法といった一般市民が行える処置の基本技術を習得させる。また、規律訓練を行い、集団行動に必要な規律を習得させる。</p> <p>※この科目履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切だと担当教員が判断した場合及び個人装備準備不足の場合、実習に参加できない。</p>				
授業終了時の到達目標				
救急救命士として必要な基礎知識、スキルを習得させ、団体行動の基本である規律や報告等の基本動作を身につけさせる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション・規律訓練	小隊分け(班分け)。整列・敬礼・右向け・左向け・回れ右・番号		
2	オリエンテーション・規律訓練	整列・敬礼・右向け・左向け・回れ右・番号		
3	胸骨圧迫心臓マッサージ	心肺蘇生の基本である胸骨圧迫、強く・早く・絶え間なく		
4	一般市民用AED取り扱い	安全確認・一般市民の行うAEDの取り扱い。		
5	一般市民が行う観察及び応援要請	安全確認・呼びかけ反応・刺激(肩をたたく)の反応。呼吸の確認。応援要請(AEDの依頼と119番通報依頼)。		
6	一般市民が行う観察及び応援要請	応援者と協力しての胸骨圧迫とAED(胸骨圧迫の交代)。救急隊引き継ぎ。		
7	一般市民の行う応急手当	感染対策。直接圧迫止血方法、頭部保護、腕吊りなど。		
8	一般市民の行う応急手当	指拭法、背部叩打法、ハイムリック法など。		
9	一般市民の行う心肺蘇生法総合訓練	シナリオを用いた、一般市民の行う心肺蘇生法(傷病者発見から救急隊引き継ぎまで)。		
10	一般市民の行う心肺蘇生法総合訓練	シナリオを用いた、一般市民の行う心肺蘇生法(傷病者発見から救急隊引き継ぎまで)。		
11	三角巾を用いた応急処置	三角巾と副子による固定方法		
12	三角巾を用いた応急処置	三角巾による圧迫止血方法、頭部保護、腕吊りなど		
13	徒手による搬送法	担架やストレッチャーを用いない搬送。		
14	徒手による搬送法	担架やストレッチャーを用いない搬送。		
15	救急隊の行う心肺蘇生法①	安全確認・状況評価、傷病者観察、心肺蘇生法、AED。(成人、小児、乳児)。		

回	テーマ	内容
16	救急隊の行う心肺蘇生法①	安全確認・状況評価、傷病者観察、心肺蘇生法、AED。（成人、小児、乳児）。
17	救急隊の行う心肺蘇生法① 気道確保と人工呼吸。	用手による気道確保（下顎挙上、頭部後屈顎先挙上法など）。バックバルブマスクによる人工呼吸（補助換気含む）及び酸素投与。
18	救急隊の行う心肺蘇生法① 気道確保と人工呼吸。	用手による気道確保（下顎挙上、頭部後屈顎先挙上法など）。バックバルブマスクによる人工呼吸（補助換気含む）及び酸素投与。
19	救急隊としての心肺蘇生法①。 観察とインフォームドコンセント。	本人・関係者に対するインフォームドコンセント。心肺蘇生法（成人、小児、乳児）。
20	救急隊としての心肺蘇生法①。 観察とインフォームドコンセント。	本人・関係者に対するインフォームドコンセント。心肺蘇生法（成人、小児、乳児）。
21	観察とインフォームドコンセント。	気道の評価（気道閉塞の有無と解除法）。
22	観察手技（バイタルサイン）	意識の評価（JCS、GCS）体温測定。
23	観察手技（バイタルサイン）	呼吸の評価（様々な呼吸様式）。胸郭運動の視診。聴診（聴診器）。
24	観察手技（バイタルサイン）	循環の評価。各部位での脈拍確認（総頸、橈骨、大腿、足背など）。血圧測定（聴診法、触診法）。
25	救急隊としての心肺蘇生法①。 観察とインフォームドコンセント。	心肺蘇生法（成人、小児、乳児）。シナリオを用いたバイタルサインの測定。意識あり。意識なし。心肺停止。
26	救急隊としての心肺蘇生法①。 観察とインフォームドコンセント。	心肺蘇生法（成人、小児、乳児）。シナリオを用いたバイタルサインの測定。意識あり。意識なし。心肺停止。
27	気道確保と人工呼吸（補助換気含む）及び酸素投与。	エアウェイ（経鼻、経口）を使用した気道確保及び人工呼吸。酸素投与（マスク各種）
28	気道確保と人工呼吸（補助換気含む）及び酸素投与。	エアウェイ（経鼻、経口）を使用した気道確保及び人工呼吸。酸素投与（マスク各種）
29	喉頭展開と異物除去及び吸引。	喉頭鏡の取り扱い。喉頭展開実施マギール鉗子による異物の除去、吸引。
30	喉頭展開と異物除去及び吸引。	喉頭鏡の取り扱い。喉頭展開実施マギール鉗子による異物の除去、吸引。
31	半自動除細動器（狭義のAED）の取り扱い。	傷病者接触から半自動除細動器を用いた観察（モニター確認）。容態変化あり。
32	半自動除細動器（狭義のAED）の取り扱い。	傷病者接触から半自動除細動器を用いた観察（モニター確認）。容態変化あり。
33	情報聴取、病院連絡。	年齢・性別、「GUMBA」「MIST」「SAMPLE」など、の聴取。病院連絡。
34	情報聴取、病院連絡。	年齢・性別、「GUMBA」「MIST」「SAMPLE」など、の聴取。病院連絡。
35	担架、ストレッチャーを用いた搬送。	布担架、屈折担架、メインストレッチャー、スクープストレッチャー、バックボードの取り扱い。

回	テーマ	内容
36	担架、ストレッチャーを用いた搬送。	各種担架、ストレッチャーを使用した搬送。
37	救急隊の活動①	接触・観察・判断・インフォームドコンセント・処置・確認・情報聴取・病院連絡・搬送。
38	救急隊の活動①	接触・観察・判断・インフォームドコンセント・処置・確認・情報聴取・病院連絡・搬送。
39	救急隊の活動①	接触・観察・判断・インフォームドコンセント・処置・確認・情報聴取・病院連絡・搬送。
40	救急隊の活動①	接触・観察・判断・インフォームドコンセント・処置・確認・情報聴取・病院連絡・搬送。
41	特定行為手技（声門上デバイス）	LM、Iジェルの基本手技。適応、禁忌。
42	特定行為手技（声門上デバイス）	LM、Iジェル救急隊活動の中で実施。
43	特定行為手技（食道閉鎖式エアウェイ）	コンビチューブ、WB、LTの基本手技。適応、禁忌。
44	特定行為手技（食道閉鎖式エアウェイ）	コンビチューブ、WB、LTの基本手技。
45	シナリオ想定訓練。 コンビチューブ、WB、LT、LM、I	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動なし。
46	シナリオ想定訓練。 コンビチューブ、WB、LT、LM、I	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動なし。
47	シナリオ想定訓練。 コンビチューブ、WB、LT、LM、I	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。
48	シナリオ想定訓練。 コンビチューブ、WB、LT、LM、I	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。
49	特定行為手技（気管挿管）	気管挿管基本手技。適応と禁忌。ETC02モニター使用方法。
50	特定行為手技（気管挿管）	気管挿管基本手技。適応と禁忌。ETC02モニター使用方法。
51	特定行為手技（気管挿管）	気管挿管基本手技。適応と禁忌。ETC02モニター使用方法。
52	特定行為手技（気管挿管）	気管挿管基本手技。適応と禁忌。ETC02モニター使用方法。
53	特定行為手技（気管挿管）	気管挿管基本手技。ビデオ硬性喉頭鏡による挿管。
54	特定行為手技（気管挿管）	気管挿管基本手技。ビデオ硬性喉頭鏡による挿管。
55	シナリオ想定訓練（気管挿管）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動なし。

回	テ ー マ	内 容
56	シナリオ想定訓練（気管挿管）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動なし。
57	シナリオ想定訓練（気管挿管）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。
58	シナリオ想定訓練（気管挿管）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。
59	シナリオ想定訓練（気管挿管）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。除細動なし。
60	シナリオ想定訓練（気管挿管）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。除細動なし。
61	特定行為（静脈路確保）	静脈路確保のための輸液。
62	特定行為（静脈路確保）	静脈路確保及び輸液。
63	特定行為（静脈路確保及びアドレナリン投与）	静脈路確保、アドレナリン投与。
64	特定行為（静脈路確保及びアドレナリン投与）	静脈路確保、アドレナリン投与。
65	特定行為（静脈路確保及びアドレナリン投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動なし。
66	特定行為（静脈路確保及びアドレナリン投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。
67	シナリオ想定訓練（静脈路確保及びアドレナリン投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動なし。
68	シナリオ想定訓練（静脈路確保及びアドレナリン投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動なし。
69	シナリオ想定訓練（静脈路確保及びアドレナリン投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。
70	シナリオ想定訓練（静脈路確保及びアドレナリン投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。
71	シナリオ想定訓練（静脈路確保及びアドレナリン投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。除細動なし。器具を用いた気道確保有り。
72	シナリオ想定訓練（静脈路確保及びアドレナリン投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。除細動あり。除細動なし。器具を用いた気道確保有り。
73	エピペンの使用方法	エピペンの使用方法
74	エピペンの使用方法	学校教員指導用、救急隊員用シナリオ。
75	特定行為（血糖測定・ブドウ糖投与）	血糖測定・ブドウ糖投与（適応と禁忌）。基本手技。

回	テーマ	内容		
76	特定行為（血糖測定・ブドウ糖投与）	血糖測定・ブドウ糖投与（適応と禁忌）。基本手技。		
77	特定行為（血糖測定・ブドウ糖投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。		
78	特定行為（血糖測定・ブドウ糖投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。		
79	特定行為（血糖測定・ブドウ糖投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。		
80	特定行為（血糖測定・ブドウ糖投与）	救急隊活動の中で実施（シナリオそれぞれの適応と禁忌）。		
81	総合救急隊活動①	救急隊として3人で活動。前期の総括		
82	総合救急隊活動①	救急隊として3人で活動。前期の総括		
83	総合救急隊活動①	救急隊として3人で活動。前期の総括		
84	総合救急隊活動①	救急隊として3人で活動。前期の総括		
85	定期試験	期末試験		
86	定期試験	期末試験		
87	定期試験	期末試験		
88	定期試験	期末試験		
89	定期試験	期末試験		
90	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 「JPTEC ガイドブック」 ※へるす出版 必要に応じ資料を配付		出席率	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
文章理解		救急救命学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

救急救命士として必要な文章理解及び読解力を学びながら、併せて救急救命士国語問題の解法テクニックを学ぶ。

授業終了時の到達目標

基礎的な問題演習を通して、救急救命士国家試験の出題パターンと解法テクニックを学ぶ。

回	テーマ	内容
1	人体の構造①	細胞・体液・組織について
2	人体の構造②	運動用語の理解
3	神経系の構造	中枢神経の理解・末梢神経・脳神経の構造の理解
4	感覚器の構造	視覚・味覚・聴覚の構造の理解
5	呼吸器の構造	鼻腔の構造・口腔・咽頭・気管・肺の構造
6	循環器の構造	心臓・脈管の理解
7	消化器の構造	嚥下の理解、消化管の理解
8	泌尿器の構造	腎臓の理解
9	生殖器の構造	生殖器の理解
10	内分泌とは	内分泌器官の理解
11	血液・免疫の構造	血液の理解
12	筋・骨格系の構造	筋・骨格系の理解
13	皮膚の構造	皮膚の構造の理解
14	まとめ①	まとめ
15	まとめ②	まとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士 標準テキスト 改定第10版」 「出題分野別 国家試験問題・解説集」	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
数的推理		救急救命学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

基礎的な人体の機能を理解し基礎学力の向上を目的とする。

講義の進め方は国家試験問題を解くために必要な考え方やアウトプットを行い基礎の向上を目標とする。

授業終了時の到達目標

救急救命士としての問題を解決する能力向上を目的として、人体の生理的構造について理解を深める

回	テーマ	内容
1	人体の機能①	人体の構造と機能についての歴史と現在
2	人体の機能②	解剖生理を学ぶための基礎とは
3	神経の機能	神経系の構造とは 脳と高次機能
4	感覚器の機能	感覚機能の伝導路
5	呼吸器の機能	呼吸のメカニズム ガス交換 肺循環
6	循環器の機能	心臓の排出機能 心電図
7	消化器の機能	栄養の消化と吸収
8	泌尿器の機能	大腸の機能 排尿機能 体液の調整と尿の生成
9	生殖器の機能	生殖器の機能
10	内分泌の機能	生命維持システム 体液とホメオスタシス ホルモン役割
11	血液・免疫の機能	末梢循環系の構造、役割とは
12	筋・骨の機能	筋、骨の構造・役割
13	皮膚の機能	皮膚の役割 感覚機能
14	まとめ①	まとめ①
15	まとめ②	まとめ②

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士 標準テキスト 改定第10版」	出席率 期末試験 授業態度	10.0% 80.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		救急救命学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

心理学とは、一般の人間の心(精神)を研究する学問であると言われている。医療職を目指す学生は、人間の行動を知り、コミュニケーション能力を高める必要がある。また、今日の心理学は行動の科学、学問とも言われている。

講義は、問いに対してのディスカッションを積極的に取り入れ自分の感じた事を表現し、医療人として多面的に人を捉えられる様に進める。

授業終了時の到達目標

心理学の基礎知識を学び、医療人として多面的に人を捉えられ、対応出来る事を目標とする。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	心理学とは	心理学とは何か
3	感覚・知覚・認知とは	感覚・知覚・認知
4	学習と記憶とは	学習と記憶
5	感情とは	感情とは
6	乳児期・児童期とは(ケーススタディー)	乳児期・児童期とは
7	青年期・成人期・老年期とは(ケーススタディー)	青年期・成人期・老年期とは
8	自己・性格・人格とは(パーソナリティ)	自己・性格・人格とは(パーソナリティ)
9	防衛機制とは	防衛機制とは
10	心理テスト(ケーススタディー)	心理テスト(ケーススタディー)
11	こころの病気とは①	こころの病気とは①
12	こころの病気とは②	こころの病気とは②
13	こころの病気とは③(ケーススタディー)	こころの病気とは③(ケーススタディー)
14	まとめ①	まとめ①
15	まとめ②	まとめ②

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
配布資料	出席率	30.0%	
	授業態度	20.0%	
	期末試験	50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急症候学Ⅱ（梅村武寛）		救急救命学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師

授業の概要

救急医療の中でも重症、緊急性であり、救急救命処置を行わなくてはならない心肺停止からはじまり、その他の随伴症状、自覚的所見だけではなく、他覚的所見から考えられる疾患や病態生理学、各論を学ぶ。心肺停止をはじめとする、救急医療の最重症となる症状から、心肺停止に至る前の状態や所見を学ぶことにより、心肺停止前に救命することができる。

授業終了時の到達目標

適切な観察、判断により適切な医療機関へ搬送するための情報収集を身につける。全30回で急性期障害の病態各論を学ぶ。

回	テーマ	内容
1	『意識障害』	総論：脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等
2	『頭痛』	総論：脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等
3	『痙攣』	総論：脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等
4	『運動麻痺』	総論：脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等
5	『めまい』	総論：脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等
6	『呼吸困難』	総論：呼吸不全・上気道の疾患・下気道と肺胞の疾患・感染症等
7	『喀血』	総論：呼吸不全・上気道の疾患・下気道と肺胞の疾患・感染症等
8	『一過性意識消失と失神』	総論：脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等
9	『胸痛』	総論：動脈硬化・うっ血性心不全・虚血性心疾患・心筋梗塞等
10	『動悸』	総論：動脈硬化・うっ血性心不全・虚血性心疾患・心筋梗塞等
11	『腹痛』	総論：口腔疾患・食道疾患。胃十二指腸疾患・腸疾患等
12	『吐血・下血』	総論：口腔疾患・食道疾患。胃十二指腸疾患・腸疾患等
13	『腰痛・背部痛』	総論：腎臓の疾患・尿路の疾患・生殖器の疾患等
14	『体温上昇』	総論：血液疾患・免疫疾患
15	『期末試験』	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料を配付	期末試験 出席率	90.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急症候学Ⅲ		救急救命学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師

授業の概要

救急医療の中の救急隊員、救急救命士の役割について詳説し、救急救命士を目指す自覚を持たせる。外傷病院前救護ガイドラインを詳説する。外傷各論について概説する。
テキストを基準に講義を進めるが、必要に応じて資料配布や映像教材による講義を行う外傷の基礎知識の習得に努める。また、実際の症例や写真などの資料を元に実際の救急傷病者のイメージを持つとともに、処置内容等についても学ぶ。

授業終了時の到達目標

救急医療の中の救急隊員、救急救命士の役割について習熟する。

回	テーマ	内容
1	『頭部外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
2	『顔面外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
3	『脊椎・脊髄外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
4	『脊椎・脊髄外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
5	『胸部外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
6	『胸部外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
7	『腹部外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
8	『腹部外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
9	『骨盤外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
10	『四肢外傷』	特徴・主な外傷・現場活動
11	『皮膚・軟部組織外傷』	受傷機転と病態・評価・処置
12	『妊婦・小児・高齢者の外傷』	小児の外傷・高齢者の外傷・妊婦の外傷
13	『熱傷』	受傷機転と病態・評価・処置
14	『化学損傷』	各種の化学損傷・観察・処置
15	『定期試験』	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 「JPTECガイドブック改訂第二版」 ※へるす出版 必要に応じ資料を配付	期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
環境障害		救急救命学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	講師
授業の概要				
中毒・熱中症・低体温等による環境が人に影響することについて学習する。環境による影響で生じる救急疾患の授業を行う。				
授業終了時の到達目標				
中毒・熱中症・低体温等による環境が人に影響することについて学習する。環境による影響で生じる救急疾患の授業を行う。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス(講義の進め方等)『中毒総論』中毒性物質・病態生理	ガイダンス		
2	『中毒総論』	観察と処置・医療機関での診療		
3	『中毒総論』	医療機関での診療・医療機関選定と搬送中の注意		
4	『中毒総論』	中毒情報		
5	『中毒各論』	医薬品中毒(睡眠薬・向精神薬・解熱鎮痛薬)		
6	『中毒各論』	農薬中毒(パラコート・有機リン系殺虫剤等)		
7	『中毒各論』	工業用品中毒(重金属・有機溶剤・シアン)		
8	『中毒各論』	ガス中毒(一酸化炭素・硫化水素・亜硫酸ガス。塩素ガス)		
9	『中毒各論』	アルコール中毒・家庭用品中毒・薬物乱用・その他		
10	『異物』	気道異物・消化管異物・その他の異物		
11	『溺水』『偶発性低体温』	発生機序と病態生理・観察		
12	『熱中症』	病態生理・観察・処置・搬送時の注意		
13	『放射線障害』	放射線の概要・人体絵への影響・放射線への対応・観察と処置		
14	『その他の環境障害』	高山病・減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害		
15	定期試験	定期試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料を配付		期末試験 授業態度	90.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急救命実習Ⅲ		救急救命学科/2年	2024/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
分	90回	5単位(225時間)	必須	講師

授業の概要

特定行為の理論と基本的実技について具体的な実習を通して理解習得させる。
 特定行為実施要領、気道確保手技、静脈路確保手技、薬剤投与手技、指示要請要領、外傷処置要領、救急隊活動想定訓練

授業終了時の到達目標

特定行為の理論と基本的実技について具体的な実習を通じて立会させる

回	テーマ	内容
1	起立訓練の履修	訓練礼式
2	起立訓練の履修	訓練礼式
3	起立訓練の履修	訓練礼式
4	起立訓練の履修	訓練礼式
5	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
6	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
7	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
8	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
9	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
10	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
11	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
12	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
13	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
14	心肺蘇生法の履修	基本的手技訓練
15	特定行為手技	気管挿管手技

回	テ ー マ	内 容
16	特定行為手技	気管挿管手技
17	特定行為手技	気管挿管手技
18	特定行為手技	気管挿管手技
19	特定行為手技	気管挿管手技
20	特定行為手技	気管挿管手技
21	特定行為手技	気管挿管手技
22	特定行為手技	気管挿管手技
23	特定行為手技	気管挿管手技
24	特定行為手技	気管挿管手技
25	特定行為手技	上気道デバイス手技
26	特定行為手技	上気道デバイス手技
27	特定行為手技	上気道デバイス手技
28	特定行為手技	上気道デバイス手技
29	特定行為手技	上気道デバイス手技
30	特定行為手技	静脈路確保手技
31	特定行為手技	静脈路確保手技
32	特定行為手技	静脈路確保手技
33	特定行為手技	静脈路確保手技
34	特定行為手技	静脈路確保手技
35	特定行為手技	静脈路確保手技

回	テ ー マ	内 容
36	特定行為手技	静脈路確保手技
37	特定行為手技	静脈路確保手技
38	特定行為手技	静脈路確保手技
39	特定行為手技	静脈路確保手技
40	特定行為手技	薬剤投与手技
41	特定行為手技	薬剤投与手技
42	特定行為手技	薬剤投与手技
43	特定行為手技	薬剤投与手技
44	特定行為手技	薬剤投与手技
45	特定行為手技	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
46	特定行為手技	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
47	特定行為手技	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
48	特定行為手技	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
49	特定行為手技	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
50	特定行為手技	薬剤投与手技
51	特定行為手技	薬剤投与手技
52	特定行為手技	薬剤投与手技
53	特定行為手技	薬剤投与手技
54	特定行為手技	薬剤投与手技
55	特定行為隊活動	薬剤投与手技

回	テ ー マ	内 容
56	特定行為隊活動	薬剤投与手技
57	特定行為隊活動	薬剤投与手技
58	特定行為隊活動	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
59	特定行為隊活動	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
60	特定行為隊活動	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
61	特定行為隊活動	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
62	特定行為隊活動	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
63	特定行為隊活動	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
64	特定行為隊活動	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
65	特定行為隊活動	血糖値測定、ブドウ糖投与手技
66	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練
67	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練
68	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練
69	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練
70	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練
71	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練
72	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練
73	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練
74	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練
75	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練

回	テ ー マ	内 容		
76	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
77	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
78	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
79	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
80	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
81	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
82	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
83	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
84	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
85	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
86	特定行為隊活動	シナリオに基づいた想定訓練		
87	学期末試験	学期末試験		
88	学期末試験	学期末試験		
89	学期末試験	学期末試験		
90	学期末試験	学期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
改訂第10版救急救命士標準テキスト 改訂第2版補訂版JPTECガイドブック PEMECガイドブック2023		実習・実技評価 出席率	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシー		救急救命学科/2年	2024/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	講師

授業の概要

文書デザイン検定で身につけた技能を応用することで、ビジネスやスクールライフでより良いレポート、卒業論文、報告書などを作成することができます。
表計算ソフトの操作に関して基礎的な技能を有し、日常業務において独力で表作成ができる基礎的な知識の習得を目指す。

授業終了時の到達目標

日本情報処理検定協会の文書デザイン検定試験3級を目指す。
日本情報処理検定協会の情報処理技能検定試験を目指す。

回	テーマ	内容
1	授業(Microsoft World 2019)	オリエンテーション、この授業内容の紹介や成績評価など。
2	授業(Microsoft World 2019)	Windows, Wordの紹介、記号の入力、IMEパッドの利用。
3	授業(Microsoft World 2019)	ページ設定、挨拶文の入力、文字のコピー移動、文字の配置、インデント。
4	授業(Microsoft World 2019)	表の作成、表のレイアウト変更、表に書式を設定、表にスタイルの適用。
5	授業(Microsoft World 2019)	文字の効果、書式コピー、行間設定、ルーラーの表示、ドロップキャップ。
6	授業(Microsoft World 2019)	ワードアートと図形の挿入、画像の挿入、ページ罫線の作成。
7	授業(Microsoft World 2019)	文書内の単語の検索、置換、PDFファイルとして保存。
8	授業(Microsoft World 2019)	総合練習七と総合練習八を使って第一回から第7回授業の復習。
9	授業(Microsoft World 2019)	総合練習七と総合練習八を使って第一回から第7回授業の復習。
10	授業(Microsoft World 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。
11	授業(Microsoft World 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。
12	授業(Microsoft World 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。
13	授業(Microsoft World 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。
14	授業(Microsoft World 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。
15	授業(Microsoft World 2019)	前期の実力を確認するための期末テストの実施。

回	テ ー マ	内 容		
16	授業(Microsoft Excel 2019)	表作成の基本 表計算ソフトとは。データ入力の基本。		
17	授業(Microsoft Excel 2019)	表作成の基本 表計算ソフトとは。データ入力の基本。		
18	授業(Microsoft Excel 2019)	基本的な表の作成 罫線、表示形式、列幅、書式の変更、オートフィル		
19	授業(Microsoft Excel 2019)	基本的な関数 合計、平均、最大、最小、数のカウント		
20	授業(Microsoft Excel 2019)	表示形式応用 小数点、%を含んだ表の作成		
21	授業(Microsoft Excel 2019)	グラフ基礎 グラフ作成の基礎		
22	授業(Microsoft Excel 2019)	絶対参照と相対参照 構成比率を計算する為のセルの固定(絶対参照)と相対参照の使い方。		
23	授業(Microsoft Excel 2019)	並べ替え、オートフィルタ、セルの結合		
24	授業(Microsoft Excel 2019)	表作成 今までの総合的操作の確認		
25	授業(Microsoft Excel 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。		
26	授業(Microsoft Excel 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。		
27	授業(Microsoft Excel 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。		
28	授業(Microsoft Excel 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。		
29	授業(Microsoft Excel 2019)	3級検定対策 過去問題集を用いて3級合格程度の技能習得を目指す。		
30	授業(Microsoft Excel 2019)	【第15回】後期の実力を確認するための期末テストの実施。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Microsoft World 2019基礎 文書デザイン模擬問題集 Microsoft Excel 2019基礎(よくわかる) 情報処理技能検定試験表計算模擬問題集		出席率 授業態度 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急症候学Ⅱ（登川夏海）		救急救命学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師

授業の概要

救急医療の中でも重症、緊急性であり、救急救命処置を行わなくてはならない心肺停止からはじまり、その他の随伴症状、自覚的所見だけではなく、他覚的所見から考えられる疾患や病態生理学、各論を学ぶ。心肺停止をはじめとする、救急医療の最重症となる症状から、心肺停止に至る前の状態や所見を学ぶことにより、心肺停止前に救命することができる

授業終了時の到達目標

心肺停止をはじめとする、救急医療の最重症となる症状から、心肺停止に至る前の状態や所見を学ぶことにより、心肺停止前に救命することができる。適切な観察、判断により適切な医療機関へ搬送するための情報収集を身につける。全30回で急性期障害の病態各論を学ぶ。

回	テーマ	内容
1	『意識障害』	原因、随伴症候、判別を要する病態
2	『意識障害』	緊急度・重症度の判断
3	『頭痛』	発症機序、原因疾患、発症の状況
4	『頭痛』	随伴症候、緊急度・重症度の判断、現場活動
5	『痙攣』	定義・概念、病態、分類、原因疾患
6	『痙攣』	随伴症候、判別を要する病態、緊急度・重症度の判断、現場活動
7	『運動麻痺』	定義・概念、発症機序、分類、原因疾患
8	『運動麻痺』	随伴症候、判別を要する病態、緊急度・重症度の判断、現場活動
9	『めまい』	定義・概念、病態、分類、原因疾患
10	『めまい』	随伴症候、緊急度・重症度の判断、現場活動
11	『呼吸困難』	定義・概念、病態、分類、原因疾患
12	『呼吸困難』	随伴症候、緊急度・重症度の判断、現場活動
13	『喀血』	定義・概念、分類、喀血による影響、原因疾患
14	『喀血』	判別を要する病態、緊急度・重症度の判断、現場活動
15	定期試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
救急救命士標準テキスト改訂第10版 必要に応じ資料を配付	期末試験 出席率	90.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急用自動車同乗実習		救急救命学科/3年	2024/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
分	15回	1単位(45時間)	必須	講師
授業の概要				
救急救命士養成所指定規則(平成3年文部省/厚生省令第2号)第4条第1項第10号に基づき救急用自動車同乗実習を実施し、救急救命士を目指す学生の資質向上に努めている。 消防機関において救急自動車同乗実習を行うことにより、一連の救急活動(出場・救急事故現場・搬送・医療機関収容)について実習に学習し、チームとしての救急活動を理解する。				
授業終了時の到達目標				
救急用自動車実習要領を用い、実習目的及び実習の心構え等を理解させる。 実習終了後、各救急事案についての発表を行う。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	救急用自動車実施要領を用い、説明する。		
2	ガイダンス	レポートの記入要領の説明		
3	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
4	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
5	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
6	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
7	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
8	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
9	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
10	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
11	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
12	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
13	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
14	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
15	救急同乗実習	各消防本部救急隊指導救急救命士・救急隊長の指示による		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 「E.MT Support Book」 ※東京法令出版 救急用自動車実習要領を配布		レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
実践演習		救急救命学科/3年	2024/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	158回	21単位(315時間)	必須	講師

授業の概要

救急救命学科集大成として、最終目標とする救急救命士国家試験への合格を目指す

授業終了時の到達目標

救急救命士として必要な知識を再確認するとともに国試対策を実施し、国家試験の合格率向上を図る

回	テーマ	内容
1	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
2	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
3	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
4	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
5	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
6	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
7	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
8	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
9	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
10	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
11	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
12	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
13	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
14	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
15	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等

回	テ ー マ	内 容
16	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
17	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
18	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
19	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
20	公衆衛生・救急医学概論	講義及び模試等
21	人体の構造・機能	講義及び模試等
22	人体の構造・機能	講義及び模試等
23	人体の構造・機能	講義及び模試等
24	人体の構造・機能	講義及び模試等
25	人体の構造・機能	講義及び模試等
26	人体の構造・機能	講義及び模試等
27	人体の構造・機能	講義及び模試等
28	人体の構造・機能	講義及び模試等
29	人体の構造・機能	講義及び模試等
30	人体の構造・機能	講義及び模試等
31	人体の構造・機能	講義及び模試等
32	人体の構造・機能	講義及び模試等
33	人体の構造・機能	講義及び模試等
34	人体の構造・機能	講義及び模試等
35	人体の構造・機能	講義及び模試等

回	テ ー マ	内 容
36	人体の構造・機能	講義及び模試等
37	人体の構造・機能	講義及び模試等
38	人体の構造・機能	講義及び模試等
39	人体の構造・機能	講義及び模試等
40	人体の構造・機能	講義及び模試等
41	救急症候学	講義及び模試等
42	救急症候学	講義及び模試等
43	救急症候学	講義及び模試等
44	救急症候学	講義及び模試等
45	救急症候学	講義及び模試等
46	救急症候学	講義及び模試等
47	救急症候学	講義及び模試等
48	救急症候学	講義及び模試等
49	救急症候学	講義及び模試等
50	救急症候学	講義及び模試等
51	救急症候学	講義及び模試等
52	救急症候学	講義及び模試等
53	救急症候学	講義及び模試等
54	救急症候学	講義及び模試等
55	救急症候学	講義及び模試等

回	テ ー マ	内 容
56	救急症候学	講義及び模試等
57	救急症候学	講義及び模試等
58	救急症候学	講義及び模試等
59	救急症候学	講義及び模試等
60	救急症候学	講義及び模試等
61	病態生理	講義及び模試等
62	病態生理	講義及び模試等
63	病態生理	講義及び模試等
64	病態生理	講義及び模試等
65	病態生理	講義及び模試等
66	病態生理	講義及び模試等
67	病態生理	講義及び模試等
68	病態生理	講義及び模試等
69	病態生理	講義及び模試等
70	病態生理	講義及び模試等
71	病態生理	講義及び模試等
72	病態生理	講義及び模試等
73	病態生理	講義及び模試等
74	病態生理	講義及び模試等
75	病態生理	講義及び模試等

回	テ ー マ	内 容
76	病態生理	講義及び模試等
77	病態生理	講義及び模試等
78	病態生理	講義及び模試等
79	病態生理	講義及び模試等
80	病態生理	講義及び模試等
81	疾病救急学	講義及び模試等
82	疾病救急学	講義及び模試等
83	疾病救急学	講義及び模試等
84	疾病救急学	講義及び模試等
85	疾病救急学	講義及び模試等
86	疾病救急学	講義及び模試等
87	疾病救急学	講義及び模試等
88	疾病救急学	講義及び模試等
89	疾病救急学	講義及び模試等
90	疾病救急学	講義及び模試等
91	疾病救急学	講義及び模試等
92	疾病救急学	講義及び模試等
93	疾病救急学	講義及び模試等
94	疾病救急学	講義及び模試等
95	疾病救急学	講義及び模試等

回	テ ー マ	内 容
96	疾病救急学	講義及び模試等
97	疾病救急学	講義及び模試等
98	疾病救急学	講義及び模試等
99	疾病救急学	講義及び模試等
100	疾病救急学	講義及び模試等
101	疾病救急学	講義及び模試等
102	疾病救急学	講義及び模試等
103	疾病救急学	講義及び模試等
104	疾病救急学	講義及び模試等
105	疾病救急学	講義及び模試等
106	疾病救急学	講義及び模試等
107	疾病救急学	講義及び模試等
108	疾病救急学	講義及び模試等
109	疾病救急学	講義及び模試等
110	疾病救急学	講義及び模試等
111	外傷救急医学	講義及び模試等
112	外傷救急医学	講義及び模試等
113	外傷救急医学	講義及び模試等
114	外傷救急医学	講義及び模試等
115	外傷救急医学	講義及び模試等

回	テ ー マ	内 容
116	外傷救急医学	講義及び模試等
117	外傷救急医学	講義及び模試等
118	外傷救急医学	講義及び模試等
119	外傷救急医学	講義及び模試等
120	外傷救急医学	講義及び模試等
121	外傷救急医学	講義及び模試等
122	外傷救急医学	講義及び模試等
123	外傷救急医学	講義及び模試等
124	外傷救急医学	講義及び模試等
125	外傷救急医学	講義及び模試等
126	外傷救急医学	講義及び模試等
127	外傷救急医学	講義及び模試等
128	外傷救急医学	講義及び模試等
129	外傷救急医学	講義及び模試等
130	外傷救急医学	講義及び模試等
131	環境障害	講義及び模試等
132	環境障害	講義及び模試等
133	環境障害	講義及び模試等
134	環境障害	講義及び模試等
135	環境障害	講義及び模試等

回	テ ー マ	内 容
136	環境障害	講義及び模試等
137	環境障害	講義及び模試等
138	環境障害	講義及び模試等
139	環境障害	講義及び模試等
140	環境障害	講義及び模試等
141	環境障害	講義及び模試等
142	環境障害	講義及び模試等
143	環境障害	講義及び模試等
144	環境障害	講義及び模試等
145	環境障害	講義及び模試等
146	環境障害	講義及び模試等
147	環境障害	講義及び模試等
148	環境障害	講義及び模試等
149	環境障害	講義及び模試等
150	環境障害	講義及び模試等
151	国試模擬	講義及び模試等
152	国試模擬	講義及び模試等
153	国試模擬	講義及び模試等
154	国試模擬	講義及び模試等
155	国試模擬	講義及び模試等

回	テ ー マ	内 容		
156	国試模擬	講義及び模試等		
157	国試模擬	講義及び模試等		
158	国試模擬	講義及び模試等		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
救急救命士標準テキスト改訂10版 国試対策模試集		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎医学		救急救命学科/3年	2024/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	講師

授業の概要

学生が一番の弱点である「解剖学」を徹底的に実施する。
講義形式で行い、小テストや国家試験の過去問を中心に実施し、誤答した箇所を確認し、確実に知識として身につけさせる。

授業終了時の到達目標

国家試験対策の一環とし、基礎解剖学、生理学を重点におき実施することで、救急救命士国家試験の正答率を向上させ、合格につなげる。

回	テーマ	内容
1	ガイダンス『神経系』	神経系に係る復習及び過去問の実施解説
2	ガイダンス『神経系』	神経系に係る復習及び過去問の実施解説
3	『感覚系』	感覚器に係る復習及び過去問の実施解説
4	『感覚系』	感覚器に係る復習及び過去問の実施解説
5	『呼吸系』	呼吸器に係る復習及び過去問の実施解説
6	『呼吸系』	呼吸器に係る復習及び過去問の実施解説
7	『循環器系』	循環器系に係る復習及び過去問の実施解説
8	『循環器系』	循環器系に係る復習及び過去問の実施解説
9	『循環器系』	循環器系に係る復習及び過去問の実施解説
10	『循環器系』	循環器系に係る復習及び過去問の実施解説
11	『消化器系』	消化器に係る復習及び過去問の実施解説
12	『消化器系』	消化器に係る復習及び過去問の実施解説
13	『泌尿系』	泌尿器に係る復習及び過去問の実施解説
14	『泌尿系』	泌尿器に係る復習及び過去問の実施解説
15	『生殖系』	生殖器に係る復習及び過去問の実施解説

回	テ ー マ	内 容		
16	『生殖系』	生殖器に係る復習及び過去問の実施解説		
17	『内分泌系』	内分泌に係る復習及び過去問の実施解説		
18	『内分泌系』	内分泌に係る復習及び過去問の実施解説		
19	『内分泌系』	内分泌に係る復習及び過去問の実施解説		
20	『血液・免疫系』	血液・免疫系に係る復習及び過去問の実施解説		
21	『血液・免疫系』	血液・免疫系に係る復習及び過去問の実施解説		
22	『血液・免疫系』	血液・免疫系に係る復習及び過去問の実施解説		
23	『血液・免疫系』	血液・免疫系に係る復習及び過去問の実施解説		
24	『筋・骨格系』	筋・骨格系に係る復習及び過去問の実施解説		
25	『筋・骨格系』	筋・骨格系に係る復習及び過去問の実施解説		
26	『皮膚系』	皮膚系に係る復習及び過去問の実施解説		
27	『皮膚系』	皮膚系に係る復習及び過去問の実施解説		
28	『生命の維持』	生命の維持に係る復習及び過去問の実施解説		
29	『生命の維持』	生命の維持に係る復習及び過去問の実施解説		
30	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ教材配布		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
公務員基礎応用Ⅱ		救急救命学科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	90回	4単位(180時間)	選択	講師

授業の概要

公務員試験対策の一環として、数学・数的推理について理解を深めるとともに、基礎数学を理解し、薬理学計算及びボンベ残圧計算などの基礎学力の向上を目的とする。講義の進め方は数学・数的推理、両分野とも当該単元の問題を解くために必要な考え方や公式を説明してからその内容の問題演習を行う

授業終了時の到達目標

公務員試験対策の一環として、数学・数的推理について理解を深めるとともに、基礎数学を理解し、薬理学計算及びボンベ残圧計算などの基礎学力の向上を目的とする。講義の進め方は数学・数的推理、両分野とも当該単元の問題を解くために必要な考え方や公式を説明してからその内容の問題演習を行う

回	テーマ	内容
1	政治分野	民主主義
2	政治分野	日本国憲法
3	政治分野	基本的人権
4	政治分野	三権分立
5	政治分野	国際政治
6	経済分野	市場・価格
7	経済分野	金融
8	経済分野	財政
9	経済分野	為替・貿易
10	経済分野	経済指標
11	社会分野	社会保障
12	社会分野	社会保障
13	社会分野	情報
14	社会分野	環境問題
15	社会分野	環境問題

回	テ ー マ	内 容
16	倫理分野	手順 1
17	倫理分野	手順 2
18	倫理分野	暦
19	倫理分野	数的推理 1
20	倫理分野	数的推理 2
21	図形分野	折り紙 1
22	図形分野	平面図形
23	図形分野	軌跡
24	図形分野	空間図形
25	図形分野	多面体
26	数の性質と計算	比と割合
27	数の性質・計算	記数法
28	数の性質・計算	約数・倍数
29	数の性質・計算	整数
30	数の性質・計算	その他の数量問題
31	場合の数と確率	場合の数（順列と組合せ）
32	場合の数と確率	確率（順列と組合せ）
33	場合の数と確率	確率（排反・独立）
34	場合の数と確率	確率（反復試行）
35	場合の数と確率	確率（条件確率・期待値）

回	テ ー マ	内 容
36	地理	気候・土壌・風
37	地理	地形
38	地理	日本
39	地理	世界
40	地理	人口・漁業・環境・民族
41	倫理・現代社会	日本の思考
42	倫理・現代社会	世界の思考
43	倫理・現代社会	現代社会
44	実践演習	問題解説
45	実践演習	問題解説
46	実践演習	問題解説
47	実践演習	問題解説
48	実践演習	問題解説
49	実践演習	問題解説
50	実践演習	問題解説
51	実践演習	問題解説
52	実践演習	問題解説
53	実践演習	問題解説
54	実践演習	問題解説
55	実践演習	問題解説

回	テ ー マ	内 容
56	実践演習	問題解説
57	実践演習	問題解説
58	実践演習	問題解説
59	実践演習	問題解説
60	実践演習	問題解説
61	実践演習	問題解説
62	実践演習	問題解説
63	実践演習	問題解説
64	実践演習	問題解説
65	実践演習	問題解説
66	実践演習	問題解説
67	実践演習	問題解説
68	実践演習	問題解説
69	実践演習	問題解説
70	実践演習	問題解説
71	実践演習	問題解説
72	実践演習	問題解説
73	実践演習	問題解説
74	実践演習	問題解説
75	実践演習	問題解説

回	テ ー マ	内 容		
76	実践演習	問題解説		
77	実践演習	問題解説		
78	実践演習	問題解説		
79	実践演習	問題解説		
80	実践演習	問題解説		
81	実践演習	問題解説		
82	実践演習	問題解説		
83	実践演習	問題解説		
84	実践演習	問題解説		
85	実践演習	問題解説		
86	実践演習	問題解説		
87	実践演習	問題解説		
88	実践演習	問題解説		
89	実践演習	問題解説		
90	実践演習	問題解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公務員国家公務員地方公務員初級①政治・経済・社会 公務員国家公務員地方公務員初級②日本史・世界史・地理・思想 公務員国家公務員地方公務員初級③文章理解・国語・文学・芸術 ※東京アカデミー七賢出版		出席率 授業態度	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療総合		救急救命学科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	90回	4単位(180時間)	選択	講師

授業の概要

救急救命で培った、知識を活かし、医療事務請求の知識をつける。
 医師事務作業補助者の知識をつける。

授業終了時の到達目標

診療報酬請求事務認定試験合格

回	テーマ	内容
1	医療保険制度の知識	社会保険制度
2	医療保険制度の知識	保険の給付の概要
3	医療保険制度の知識	医療関係法規
4	医療保険制度の知識	介護保険概要
5	医療保険制度の知識	公費負担
6	医療保険制度の知識	療養担当規則
7	基本診療	初診料
8	基本診療	再診
9	基本診療	再診
10	基本診療	外来診療
11	基本診療	まとめ(レセプト演習)
12	特掲診療料	指導管理料
13	特掲診療料	指導管理料
14	特掲診療料	在宅医療
15	特掲診療料	在宅管理指導料

回	テ ー マ	内 容
16	特掲診療料	在宅管理指導料
17	特掲診療料	投薬
18	特掲診療料	投薬
19	特掲診療料	投薬
20	特掲診療料	注射
21	特掲診療料	注射
22	特掲診療料	処置
23	特掲診療料	処置
24	特掲診療料	手術
25	特掲診療料	手術
26	特掲診療料	麻酔
27	特掲診療料	麻酔
28	特掲診療料	輸血
29	特掲診療料	検査
30	特掲診療料	検査
31	特掲診療料	画像
32	特掲診療料	画像
33	特掲診療料	リハビリ
34	特掲診療料	リハビリ
35	特掲診療料	放射線治療

回	テ ー マ	内 容
36	特掲診療料	放射線治療
37	特掲診療料	入院
38	特掲診療料	入院料（特別入院料）
39	特掲診療料	入院料（特別入院料）
40	特掲診療料	入院料（入院時食事療養）
41	特掲診療料	入院料（入院時食事療養）
42	特掲診療料	入院料（入院時食事療養）
43	レセプト演習	外来レセプト
44	レセプト演習	外来レセプト
45	レセプト演習	外来レセプト
46	レセプト演習	入院レセプト
47	レセプト演習	入院レセプト
48	レセプト演習	入院レセプト
49	学科演習	学科試験問題対策
50	学科演習	学科試験問題対策
51	文章の書き方	診療情報提供書
52	文章の書き方	生活保護意見書
53	文章の書き方	傷病手当金申請書
54	文章の書き方	生命保険意見書
55	カルテの書き方	カルテの記載方法

回	テ ー マ	内 容
56	カルテの書き方	カルテの記載方法
57	試験対策	試験対策
58	試験対策	試験対策
59	試験対策	試験対策
60	まとめ（期末試験）	文章問題
61	レセプト作成演習	外来レセプト
62	レセプト作成演習	外来レセプト
63	レセプト作成演習	外来レセプト
64	レセプト作成演習	外来レセプト
65	レセプト作成演習	入院レセプト
66	レセプト作成演習	入院レセプト
67	レセプト作成演習	入院レセプト
68	レセプト作成演習	入院レセプト
69	レセプト作成演習	入院レセプト
70	レセプト作成演習	入院レセプト
71	レセプト作成演習	入院レセプト
72	学科演習	学科試験問題対策
73	学科演習	学科試験問題対策
74	学科演習	学科試験問題対策
75	試験対策	試験対策

回	テ ー マ	内 容		
76	試験対策	試験対策		
77	試験対策	試験対策		
78	試験対策	試験対策		
79	文章の書き方	診療情報提供書		
80	文章の書き方	診療情報提供書		
81	文章の書き方	生活保護意見書		
82	文章の書き方	生活保護意見書		
83	文章の書き方	傷病手当金申請書		
84	文章の書き方	生命保険意見書		
85	文章の書き方	生命保険意見書		
86	カルテの書き方	カルテ記載方法		
87	カルテの書き方	カルテ記載方法		
88	カルテの書き方	カルテ記載方法		
89	カルテの書き方	カルテ記載方法		
90	まとめ（期末テスト）	文章問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
診療点早見表 医療事務診療報酬請求事務能力試験のテキスト		出席率 授業態度 確認テスト	10.0% 10.0% 80.0%	診療報酬請求事務 認定試験合格であれば試験免除